

令和元年度
教育委員会事務事業に係る外部評価表
(平成30年度事業対象)

○実施日 令和元年11月28日(木) 午前10時00分

○場 所 せたな町役場 第3会議室

○外部評価委員

北檜山区豊岡 千葉 憲 之

北檜山区丹羽 阿 部 紹 子

瀬棚区本町 鵜 入 泰 宏

大成区宮野 田 嶋 潤

令和元年度せたな町教育委員会(学校教育)実施事業評価一覧表(平成30年度事業対象)

学校教育

事務事業(評価項目)		実施状況	自己評価(成果と課題)	外部評価委員意見	評価
					H30
1	教育委員の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の開催(11回) ・学校訪問(認定こども園1園、小中学校全7校) ・全道・管内研修会出席 ・せたな町総合教育会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会での案件審議、学校訪問での意見交換、研修会への参加など活動が円滑に行われた。 ・せたな町総合教育会議に参加し町長と委員の間で、教育について意見交換ができた。 ・新教育長制度に移行後も円滑な活動が図られた。 	自己評価どおりで良い	A
2	学校経営の円滑な推進	<ul style="list-style-type: none"> ・定例校長会議における教育長示達 ・各月毎の学校経営の重点及び学校経営報告書の提出 ・教育課程の適正な管理及び新学習指導要領移行措置の実施 ・教職員の服務規律保持の指導 ・生涯学習指導主事の学校訪問(各学期毎) 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月開かれる定例校長会議において、教育長示達の中で教育行政執行方針の具現化に努めていた。 ・各学校から毎月「学校経営報告書」、各学期末には「学校運営に係る自己点検票」、学年末には「教育執行方針達成度調査」の提出を求め、各校の実践事項や実情の把握に努めた。 ・教職員の服務規律等の厳守については、定例校長会議・教頭会議の中で資料を用いて指導を行った。 ・町生涯学習指導主事の学校訪問は、各学期毎の定期訪問(計21回)、教育局指導監訪問・教育局指導主事訪問(計14回)、必要に応じて随時に実施し、各校の学校経営・学習指導・生徒指導等に関わる指導・助言を行った。 ・令和2年度小学校、令和3年度中学校で全面実施となる新学習指導要領の移行措置期間における移行措置内容の実施に向けた指導・助言を行った。 ・新学習指導要領の全面実施に向けた準備が各校で確実に行われた。 ・新学習指導要領の移行期間に向けた準備。 ・教職員の服務規律指導のさらなる徹底。 	自己評価どおりで良い	A
3	学力の向上対策	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査及び町独自に標準学力検査を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査については、採点結果を分析し、日常の学習指導や各学校の「学力向上改善プラン」 	自己評価どおりで良い	A

		<ul style="list-style-type: none"> ・「せたな町学力向上改善プラン」に基づく学習指導の改善 ・学校図書室支援員の配置による学校図書室の有効活用の支援 ・家庭と連携した家庭学習の習慣化について、各学校での取り組み推進に向けての指導・助言 ・ICT機器の活用による授業改善に向けた環境整備 ・チャレンジテストへの全校参加と学力向上に向けた活用 ・学習支援員の配置 	<p>作成に生かした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校においては、小学校（年度末）・中学校（年度始め）実施の標準学力検査や全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、教育委員会作成の「せたな町学力向上改善プラン」をもとに学校独自の「学力向上改善プラン」等を作成し、学習指導等の改善に取り組んだ。 ・各校、日課に朝読書の時間を入れるなど、児童生徒の読書活動の習慣化に努めるとともに、学校図書室支援員を派遣することで、学校図書室の環境が整備され、読書活動が活発になった。 ・各学校で実物投影機やパソコンなどを活用した授業が適切に行われ、児童生徒の学習意欲が高まった。 ・全国学力調査の結果から、小学校については国語の基礎は全国平均と同様であるが、活用は全国平均を下回っている。算数は、基礎・活用とも全国平均を下回っている。中学校は、国語は基礎・活用とも全国平均を上回っている。昨年度、課題が見られた数学は、基礎は全国平均を上回り、活用は全国平均と同様である。授業改善や家庭学習の充実に向けた取り組みが、着実に行われた。 ・全国学力・学習状況調査等の結果に基づいた学力向上プラン作成と実践。家庭と連携した学習習慣定着の取組の推進。 		
4	道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「道徳科の時間」の改善・充実に向けての指導 ・道徳科の教科書、北海道版道徳教材「きたものがたり」の活用に向けての指導・助言 ・参観日等における「道徳科の時間」の授業公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科の教科書「きたものがたり」を活用した「道徳科の時間」の改善・充実については、町内全校において日常実践及び校内研修等で取り組みがされている。 ・参観日等における「道徳科の時間」の授業公開については、年間計画に位置付けられると共に、授業参観等において公開され、学校と家庭の連携した取り組みが進められた。 ・令和元年度中学校で全面实施となる「道徳の教科化」の円滑な実施に向けての準備が図られた。 	自己評価どおりで良い	A

			・「考え議論する道徳」の授業の工夫。		
5	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育連携協議会の年3回の開催と連携協議会だよりの発刊 ・「個別の教育支援計画及び指導計画」の作成 ・「特別支援教育支援員」の配置 ・W I S C IV研修会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育連携協議会を年3回開催し、教育・福祉・行政等の関係機関が連携し、実態把握・情報交換を行うとともに、連携協議会だよりを年3回発刊し、保護者・地域への啓発活動を行った。 ・就学前の幼児を対象にした就学児知能検査、2次検査、保護者への通知、必要に応じての保護者との面談、教育支援委員会での審議の有無等の流れが適切に行われた。 ・当該学校では、特別支援学級在籍者を中心に、長期的支援を見据え「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の作成が定着している。 ・特別支援教育支援員は、町内5校に計11名が配置され、特別な支援を要する児童生徒の生活・学習支援を行い、児童生徒のつまづきなどに随時対応することができた。(北檜山小学校4名、瀬棚小学校1名、久遠小学校2名、北檜山中学校3名、大成中学校1名) ・就学時の2次検査の検査者を町内の学校の教員の中から確保するため、函館養護学校の教員を講師に初めてW I S C IV研修会を実施し、2次検査を無事に終え、教育支援委員会につなげることができた。 ・特別支援教育連携協議会を通して、幼・保・小・中高・養護学校と福祉等の行政機関が連携することで、情報交換、啓発活動など綿密に行われ、町内の特別支援教育が適切に行われた。 ・各学校・家庭において、特別支援教育支援員の配置要望が多くなってきているが、募集してもなかなか応募者が希望人数に達しないため、日頃より人材確保に努める。 	自己評価どおりで良い	A

6	外国語指導助手（ALT）等の派遣	<p>○ALT1 各中学校週1～2回派遣 （月…北檜山中 火…瀬棚中 木…大成中）</p> <p>○ALT2 各小学校週1～2回派遣（8月～） （月…北檜山小 火…瀬棚小 水…若松小 金…久遠小・若松小）</p> <p>○J-ALT 各小学校週1～2回派遣 （月…北檜山小 火…瀬棚小・若松小 水…久遠小・若松小、木…北檜山小、金…瀬棚小・久遠小）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 希望する小・中学校については、ALTの空き時間を活用しての追加派遣をし、ネイティブ英語に触れる機会やコミュニケーション能力の育成に努めた。 平成30・31年度は、新学習指導要領の移行期間で、小学5・6年生は英語の教科化、小学3・4年生は外国語活動が始まった。8月からALTを1名増員し、J-ALTと併せて3名体制とし、中学校3校には今まで通り、週1～2回ALT1名を派遣し、小学校4校には、3～6年生の英語の授業と外国語活動の全時間にALT1名とJ-ALTを派遣することができた。 小学校・中学校とも、ネイティブな英語に触れる機会があることで、児童生徒の学習意欲が高まっている。また、小学校で令和2年度から本格的に始まる外国語科の指導に向けて、先生方の指導力・英語力の向上に効果が上がった。 子どもたちの英語でのコミュニケーション能力を育成するための外国語活動以外でのALTの活用。 	自己評価どおりで良い	A
7	生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 各学校での全教職員による生徒指導体制の確立 道教委のスクールカウンセラー派遣 （拠点校：北檜山中学校・年12日） 生涯学習指導主事への相談（学校訪問及び随時） せたな町いじめ防止基本方針の改定 「インターネットについてのアンケート」の実施と、スマホ使用の基本ルールの作成 	<ul style="list-style-type: none"> せたな町いじめ防止基本方針の改定に伴い、各学校でもいじめ防止基本方針の見直しが行われた。 各学校においては、いじめ防止基本方針をもとに、管理職を中心に組織的な対応が進められた。 いじめ対策については、全校で年間最低2回の「いじめアンケート」や教育相談が実施され、未然防止・早期発見・早期対応の取り組みが行われた。 今年度の「いじめアンケート」から、「嫌な思いをしたことがある」の回答が32件あったが、子どもたちへの聞きとりで、すべて「いじめの事実がない」と確認されており、認知件数は0件であった。 北檜山中学校へ道教委のスクールカウンセラー派遣を継続し、学校と連携して不登校生徒の対応に当たった。 	自己評価どおりで良い	B

			<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の町内で、90日以上欠席の不登校児童・生徒数は、8名（小学校2名、中学校6名）であった。30日以上となると、さらに2名増え（小学校1名、中学校1名）継続した指導支援が必要である。 ・町教委としては、不登校児童生徒の状況について毎月報告を求め、実態把握に努めるとともに、町指導主事が必要に応じて各校を訪れ、いじめ・不登校についての情報収集や対応等について指導助言を行った。 ・町教委として、スマホ使用の基本ルールを作成し、各学校と連携して生活習慣改善について、児童生徒への指導・保護者への啓発を行った。 ・校内で生徒指導に関する研修会等を開催し、教職員同士の情報を共有し、共通理解を図っている。 ・不登校生徒の解消に努める。 		
8	教職員の資質能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校における校内研修の促進 (檜山教育局指導主事及び町指導主事による学校指導訪問) ・せたな町教育研究会の充実 (町教育研究大会の開催、今金町との2町授業交流会、サークル活動の活発化、先進地視察研修の実施) ・町内各種教育団体への支援 (生徒指導連絡協議会、特別支援学級教育研究会、へき地複式教育研究会等) ・北海道教育研究所、檜山教育局主催の研修講座への参加 ・金銭事故防止に向けた、各学校の私費会計事務現地調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校では、研修部を中心に研修計画が立てられ、それに沿って校内研修が推進されていた。 ・教育局指導主事及び町指導主事による学校指導訪問は、予定どおり進められ、各校の経営状況や児童生徒の実態把握、その後の指導・助言に大いに役立った。 ・町教育研究会及び町内各種教育団体の活動は、予定どおり活発に行われ、教職員の資質向上に寄与した。 ・先進地視察研修を実施。(札幌市：屯田小 12/17・18 7名、1/29・30 5名 計12名) ・各種研修事業については、道研、ミニ道研、学力向上に関する研修会、生徒指導研などに参加している。 ・私費会計事務の適切な処理がされていた。 ・平成28年度より各学校においてアレルギー研修を実施。今年度、町教研の取り組みとして先進地視察研修を行い、各学校の授業改善に役立てた。私費会計事務調査については、3年に1回程度実施する。 ・研修へのさらなる参加を促す。 ・新しい研修機会の拡充と支援。 	自己評価どおりで良い	B

9	食育教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「栄養教諭による食育推進事業」 (学校栄養教諭による各学校における「食に関する指導」及び「栄養指導」の実施) ・職場体験学習実習生の受け入れ ・学校給食だよりの発行(毎月) ・安全安心な地元食材の活用 ・せたな産食材を使用した「ふるさと給食」の提供 ・町内のアレルギー児童生徒の把握と必要に応じた対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校や中学校において、栄養教諭による食に関する指導の授業を実施し、児童生徒の食に対する意識を高めることができた。 ・PTAや地域と連携した地元食材を使った調理実習や食育講習会の開催など、各校で行われた食育教育の推進を図ることができた。 ・給食センターと学校が連携して、食物アレルギーをもった児童生徒の情報を共有し、給食時間の事故の未然防止を図ることができた。 ・食育教育の推進を図ることができた。 ・アレルギーによる事故を未然に防ぐため、また、事故が起きて被害が最小限に止まるよう、アレルギー児童生徒の適切な把握と研修の充実を図る必要がある。 	自己評価どおりで良い	B
10	幼児教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育についての共通理解に基づいたきめ細かな指導の工夫 ・幼児教育と小学校教育の共通性や独自性を明確にした相互の連携や研修などの促進 ・指導主事の訪問(認定こども園) 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育連携協議会をとおして、行政機関が連携し情報交換・啓発活動等が綿密に行われた。 ・交流学习の実施。(学会総練習の見学。小学校への出向き交流。) ・各小学校で新入児童1日体験入学の実施。(2月) ・連携し情報交換・啓発活動等が綿密に行われた。 ・引き続き、認定こども園や保育所との連携を図る。 	自己評価どおりで良い	A
11	学校健診事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒内科検診 438名実施 ・児童生徒歯科検診 439名実施 ・児童生徒尿検査 452名実施 ・児童生徒眼科検診 456名実施 ・児童生徒耳鼻咽喉科検診 254名実施 ・児童生徒心臓(心電図)検診 96名実施 ・中体連駅伝選手心臓検診 22名実施 ・就学時検診 37名実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と関係機関との連携の下で、学校保健法に定められている各種健診を計画的に実施し、児童生徒の健康管理に努めることができた。 ・各種健診を計画的に実施出来ている。 児童生徒が内科・歯科検診を欠席した際の対応が各校でばらばらだったが、町学校保健協議会で協議し、令和元年度より保護者が病院・診療所へ直接連れて行くこととした。 ・スムーズに実施できるよう、学校・病院・教委で連絡を密にする。 	自己評価どおりで良い	A

1 2	地域に開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・経営方針の説明、学校だよりの配布 ・学校評議員の委嘱 ・学校支援地域ボランティアの人材を外部講師として招聘 ・学校運営協議会の設置 (瀬棚小・若松小・北檜山小・瀬棚中・北檜山中) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各校では、年度当初の参観日等で経営方針の説明を行うとともに、学校だより等で日常の児童生徒の様子を保護者や地域に知ってもらえるよう努めた。 ・学校評議員の視点から、学校経営等について意見をいただき、地域の意向を把握した学校運営が行われた。 ・学校支援地域ボランティアについても、各校の計画に沿って積極的に活用された。 ・学校評価については、自己評価（学校評価、児童・生徒評価、保護者評価等）が実施され、それらの結果については、PTA や参観日、学校だより等を用いて公表された。 ・令和元年度中に、久遠小・大成中の学校運営協議会を設置するため調整・支援を行い、全学校設置に向け準備が進められた。 ・令和元年度中に全ての学校に学校運営協議会を設置するための調整、支援。 	自己評価どおりで良い	B
1 3	子どもの安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校での「危機管理マニュアル」及び「火災や地震時の防災訓練」の点検・見直し、及び学校の立地条件に応じた火災・地震・津波・洪水などの実践的な対処や訓練の実施に向けての指導・助言 ・交通安全教室・防犯教室・薬物乱用防止教室等の実施に向けての指導・助言 ・各区毎に地域の関係機関・団体との情報交換を行い、町内安全パトロール実施 (子どもの安全を守る連絡協議会～夏休み前に開催) (生徒指導連絡協議会～各学校の決まり確認、子どもの様子等の情報交流、研修会の開催) ・せたな町通学路安全推進協議会を設置し、「通学路交通安全プログラム」を作成、プログラムに基づいた、町内各学校の通学路の確認・点検・改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校における「危機管理マニュアル」の点検と見直しが行われ、災害時における立地条件に即した対処・訓練が行われた。 ・各学校では、防犯訓練・防犯教室など実際の場面に即した訓練を実施することで、危機管理下における児童生徒の安全確保を図った。 ・各区内の関係機関・団体と連携しながら、登下校時や帰宅後の安全指導、及び祭典時の巡回指導などに努めた。 ・せたな町通学路安全推進協議会を開催し、各校の危険箇所についての確認、関係職員等と点検を行い、危険箇所の改善がされた。 ・「登下校防犯プラン」に基づき通学路の緊急合同点検を行った。(警察・北小・町・教委) ・児童生徒の安全確保が図られた。 ・薬物乱用については、これからは低年齢化が危惧され 	自己評価どおりで良い	B

		<ul style="list-style-type: none"> 関係関係会議においてまとめられた「登下校防犯プラン」に基づき合同点検の実施 	<p>るため、小学校から発達段階に即した指導や、薬物乱用防止教室の全校での開催も必要になっている。登下校中の幼児児童生徒が被害者となる事故が多く発生しており関係機関と連携が必要。</p>		
1 4	児童生徒への就学援助	<ul style="list-style-type: none"> 要保護世帯 小学生 4名 中学生 1名 計 5名 準要保護世帯 小学生 46名 中学生 38名 計 84名 <p>入学前新入学児童生徒学用品費</p> <ul style="list-style-type: none"> 準要保護世帯 小学生 5名 中学生 5名 計 10名 	<ul style="list-style-type: none"> 学校と連携のもとで、経済的援助を必要とする世帯に対して学用品費・修学旅行費等への支援ができた。 経済的援助を必要とする世帯に対して支援することが出来た。(平成28年度支給対象の拡大) 	自己評価どおりで良い	A
1 5	学校教育環境の整備充実	<ul style="list-style-type: none"> 瀬棚中学校体育館外壁等改修工事 瀬棚中学校屋内消火栓配管改修工事 瀬棚中学校水道管改修工事 瀬棚中学校校内放送設備改修工事 瀬棚中学校トイレ改修工事 大成中学校ガス警報設備等改修工事 	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化が進んでいる学校はあるが、児童生徒が安全安心な学校生活を送るため、必要箇所の修繕については随時実施し適正な維持管理に努めた。 課題としていたトイレの洋式化や多目的トイレ設置・バリアフリー化等、随時実施し適正な維持管理に努めた。 各学校のトイレ洋式化・多目的トイレの設置、バリアフリー化等計画を進めている。 老朽化した校舎の改修等の実施。 	自己評価どおりで良い	B
1 6	教育の情報化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器 備品購入事業 タブレット 19台 (大成中4台、瀬棚中7台、北檜山中8台) 中学校パソコン教室パソコン更新 ・・・教師用デスクトップPC 1台×3校 ・・・生徒用ノートPC 74台 (大成中9台、瀬棚中24台、北檜山中41台) サーバー保守管理業務 パソコン教室 ・・・LAN配線整備 ・・・バックアップ用NAS設置 	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器を活用した授業の工夫・改善が図られた。 ICTを活用したことにより生徒の授業への集中がみられる。 授業・文化祭などで児童生徒が工夫して活用した。 計画的にプログラミング教育に対応したICT環境の整備が行われている。 教員のICT活用指導力の向上の調査・研究。 小学校パソコン教室の環境整備。 児童、生徒用パソコンの計画的更新。 各学校でタブレットを活用した授業改善。 	自己評価どおりで良い	B

		・・・教育支援ソフトインストール			
17	フッ化物洗口事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各学校で保護者から実施について承諾の得られた児童・生徒に対して実施を行った。 <p><平成30年4月末 実績></p> <ul style="list-style-type: none"> 久遠小 29名 ・瀬棚小 38名 ・若松小 7名 北檜山小 159名 ・大成中 11名 ・瀬棚中 37名 北檜山中 92名 <p>合計 373名 (実施率 81.8%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実施している児童・生徒の歯・口腔の健康増進につながった。 未実施となっている保護者への啓発を行いながら、今後も継続して実施する。 未実施となっている保護者への啓発の方法について検討が必要。 	自己評価どおりで良い	A
<p>(評価指標) A 十分達成されている B おおむね達成されている C やや不十分である D 不十分である</p>					

令和元年度せたな町教育委員会(社会教育・体育振興)実施事業評価一覧表(平成30年度事業対象)

社会教育・体育振興

推進項目 (事業名)		事業の目的 (目標)	実施状況	自己評価(成果と課題)	外部評価委員意見	評価 H30
18	幼児教育の推進①	幼児教育に関する学習機会の拡充	平成30年度において実施なし	<ul style="list-style-type: none"> ・実施なし ・計画的な実施が必要である。 	自己評価どおりで良い	C
19	幼児教育の推進②	子育ての情報交換や交流の場の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート事業(月1回) ・ボランティア15名 ・対象者 24名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタートボランティアが先輩ママとなり、子育てに関する情報提供を行えた。 ・活動ボランティアが固定化しているので、新規ボランティアの確保などの工夫が必要。 ・実際に子育てを行っているは母親だけでないので、父親に対する情報提供の必要がある。 	自己評価どおりで良い	B
20	幼児教育の推進③	関係機関や団体等との連携と協力体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート事業(月1回) →ブックスタートボランティアとの連携 ・幼児英会話教室については認定こども園や保育所にALTが月1回訪問の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタートボランティア等の団体と連携し協力体制の確立を図ることができた。 ・計画通り実施できた。 ・今後も関係機関と連携し、ニーズに対応したプログラムを計画的に実施する必要がある。 	自己評価どおりで良い	B
21	少年教育の推進①	自然体験や生活体験、集団活動などの学習機会の提供	<p>生涯学習講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/13 性教育分野(北檜山中) ・11/10 性教育分野(大成中) ・5/27~9/29 玉ねぎ・人参収穫体験 ・8/2 勾玉づくり ・7/31~8/1 あさかつ事業 ・7/31 12/12 素敵にアート教室 ・5月~10月 稲作体験 ・5/28~9/20 イモホリ体験 ・9/6 森林学習(久遠小)・9/11(北檜山小) ・8/1~3 北海道ジュニアリーダーコース派遣(北檜山中3名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・少年期を対象とし、様々なプログラムの提供ができています。 ・ふるさとの「産業」・「食」について理解を深めることができた。 ・今後も計画的に学習プログラムを提供していく必要がある。 	自己評価どおりで良い	B

2 2	少年教育の推進②	異世代交流や地域での交流活動など、地域と連携した学習活動の拡充	<ul style="list-style-type: none"> 5/27 田植え体験 小学生9名 高校生3名 7/31～8/1 あさかつ 学童保育所32名 高校生6名 7/31 素敵にアート教室 小学生22名 高校生4名 	<ul style="list-style-type: none"> 檜山北高校と連携し異世代交流を図ることができた。 年間を通じた事業計画を打合せすることにより、檜山北高等学校との連携がスムーズに行われた。 計画的に小中学生・高校生・高齢者の異世代交流を図っていく必要がある。 	自己評価どおりで良い	A
2 3	青年教育の推進①	自然体験や生活体験、集団活動等を通じて主体的に学ぶ意欲を高める学習機会の拡充	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度において実施実績なし 	<ul style="list-style-type: none"> 実施なし 計画的に青年教育を進める必要がある。 	自己評価どおりで良いが、改善願いたい	D
2 4	青年教育の推進②	異世代交流や地域での交流活動など、地域と連携した活動がしやすい環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度において実施実績なし 	<ul style="list-style-type: none"> 実施なし 計画的に青年教育を進める必要がある。 	自己評価どおりで良いが、改善願いたい	D
2 5	青年教育の推進③	地域担い手としての自覚を促す学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> 3/22 若手交流会（ミニバレー・交流会） 13名 	<ul style="list-style-type: none"> 若者が集まる機会を提供できた。 今後も継続して提供し意識を高める必要がある。 	自己評価どおりで良い	B
2 6	青年教育の推進④	リーダーとなりうる人材の育成	<p>檜山北高ボランティア活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 5/27 田植え体験 小学生9名 高校生3名 7/31～8/1 あさかつ 学童保育所32名 高校生6名 7/31 素敵にアート教室 小学生22名 高校生4名 3/22 若手交流会 13名参加 	<ul style="list-style-type: none"> 各事業を通して、リーダー育成に努めた。 徐々にリーダー育成の機会が拡充されている。 今後も高校生をはじめ青年層と連携した事業の実施によりリーダー育成を図る必要がある。 	自己評価どおりで良い	C
2 7	成人教育の推進①	地域づくりへの理解と認識を深めるための学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度において実施実績なし 	<ul style="list-style-type: none"> 実施なし 計画的に成人教育を進める必要がある。 	自己評価どおりで良いが、改善願いたい	D

28	成人教育の推進②	地域活動への参画支援	<ul style="list-style-type: none"> ・せたな町PTA連合会補助金 190,000円 ・女性活動促進事業 1/29 癒やしのハンドマッサージ教室 24名 	<ul style="list-style-type: none"> ・要望に応じて活動促進に対して支援が行えた。 ・今後も継続して地域参画支援が必要である。 	自己評価どおりで良い	B
29	成人教育の推進③	地域人材の把握と教育活動への参加促進及びリーダーの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・1/25 地域学校協働活動研修会 21名 講師 北海道科学大学教授 出口 寿久 氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校が連携するための体制整備が進められた。 ・コミュニティスクールに対応した体制整備・支援が進められた。 	自己評価どおりで良い	B
30	成人教育の推進④	家庭教育に関する学習機会の支援と家庭・学校・地域の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度において実施実績なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施なし ・令和元年度、北海道教育委員会と共催で家庭教育ナビゲーター養成研修会実施予定 ・家庭教育に関する取り組みを進める必要がある。 	自己評価どおりで良い	D
31	高齢者教育の推進①	高齢者の知識や経験を地域に生かす社会参加活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・6/7・6/11 花壇に花植ボランティア(北小) 	<ul style="list-style-type: none"> ・花壇の花植えを通し、それぞれが経験を生かし子供たちの指導や補助を行うことができた。 ・活動機会の提供が不十分である。 ・ボランティアの積極的な活用が必要である。 	自己評価どおりで良い	C
32	高齢者教育の推進②	異世代交流などの場の提供と拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・6/7・6/11 花壇に花植ボランティア(北小) 再掲 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と子供が交流する機会が提供でき、高齢者にとって経験を生かす機会となったが、活動機会の提供が不十分であった。 ・各種事業において高齢者の参加機会を設ける必要がある。 	自己評価どおりで良い	C
33	高齢者教育の推進③	いきがいを高める多様な学習機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> 各区の高齢者大学の開設 ・北檜山 42名 瀬棚 15名 大成 24名 ・3区合同事業(入学式・修学旅行・修了式) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各区それぞれ特色を生かした活動が進められた。 ・学生の要望や社会情勢の動きを取り入れた学習が行われ、それぞれ充実した内容となっている。 ・合同事業では、区を超えた学生相互の交流が図られた。 ・多様な学習機会を提供していくためにプログラム内容の工夫が必要である。 	自己評価どおりで良い	A
34	芸術文化の推進①	芸術・文化に関する鑑賞機会の提供と内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・10/1 文化講演会「小林 さやか氏」 鑑賞者 90名 ・10/23～11/25 せたな町美術館～新覚吉郎顧展～ 31名 ・町民ギャラリー 2講座実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃、芸術文化に触れる機会が少ないことから、ニーズに対応した鑑賞機会を提供することができた。 ・講師の選定について検討が必要。 	自己評価どおりで良い	A

35	芸術文化の推進②	文化団体の育成と自主的活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・せたな町文化協会補助金 200,000円 ・せたな町民文化祭実行委員会補助金 500,000円 <p>町民文化祭（3会場） 展示 北 11/3・4 瀬 11/3・4 大 11/3～5 発表 北 11/18 瀬 11/10 大 11/11</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せたな町芸術鑑賞事業実行委員会補助金 1,000,000円 <p>伊奈かっぺいトークショー 江差追分日本一女流5人衆うたまつり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/30 2/24 サンデーカルチャー 延べ60名 ・1/7 新春書初め大会 16名 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化活動の推進と日頃の作品を発表する機会の提供ができた。また、芸術鑑賞事業実行委員会の立ち上げの支援を実施した。 ・今後は後継者を図る取組みについて検討する必要がある。 	自己評価どおりで良い	A
36	文化財保護の推進①	文化財・郷土資料の保護・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・6/5～7/1 大成郷土館蔵出し展示 22名 ・11/20～12/18 生涯学習センター開館記念特別展示～せたなの文化財～ 90名 ・2/8～3/3 情報センター特別展示「雛人形展」 89名 <ul style="list-style-type: none"> ・6/16・6/23 土器作り体験 大8名 北7名 計15名 ・7/21/7/22 子ども考古学教室 大5名 北4名 計9名 ・11/24 子ども歴史教室 4名 ・11/24 勾玉づくり体験 15名 ・1/16 発掘体験 5名 ・2/11・2/16・2/23 ヒトが歩いた道 計18名 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財等の保護については、文化財保護審議員と連携し適正な維持管理を行った。 ・特別展示を行い、小学生から一般町民に対し広く、文化財保護の啓発・普及を図られた。 ・文化財を活用した講座を行い、文化財に関する学習機会の提供が図られた。 ・座学が多いので、体験をメインとした講座の実施が必要である。 ・文化財保護の基盤である、埋蔵文化財台帳の整備、各文化財の適切な保存処理が必要である。 	自己評価どおりで良い	B
37	文化財保護の推進②③	郷土芸能伝承活動の推進・発表等の機会の提供による後継者の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・せたな町郷土芸能団体連絡協議会補助金 132,268円 ・大成中学校の総合的な学習の時間での指導業務（久遠神楽） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体運営に対する活動補助・支援が継続的に進められ、町外イベントへ自主的に参加している。 ・学校との協働により、学校経営に位置づけた取組みとして郷土芸能の伝承ができた。 ・各団体の会員数が減少しているため、伝承活動を継続できるように今後も支援が必要。 ・伝承活動を継続できるように今後も支援が必要。 ・大成中学校の生徒数の減少により、各パート構成が困難に 	自己評価どおりで良い	B

				成りつつある。今後の伝承活動の方向性も検討が必要。		
38	国際交流の推進①	国際感覚を身につけるための学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少年少女英会話教室 35日間 小学校3～4年 16名 ・ 初級者英会話教室 35日間 一般 15名 ・ 上級者英会話教室 15日間 一般 15名 8/9 イングリッシュレクリエーション 9名 12/15～16 イングリッシュキャンプ 17名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語を学ぶ学習機会の提供ができた。 ・ 幼児から高齢者まで幅広い年齢層に学習機会の提供を行い町内の国際交流の推進を図る必要がある。 	自己評価どおりで良い	B
39	国際交流の推進②	姉妹都市交流における青少年・成人交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ せたな町姉妹都市交流推進協議会補助金 1,695,320円 ・ 3/27～3/31 シンガポール中学生派遣事業 8名 ・ 5/24 ジョン神塚ピアノコンサート 85名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジョン神塚氏ピアノコンサートでは、町民と連弾を行うなど町内国際交流の推進を図ることができた。 ・ 中学生派遣事業においてシンガポールに派遣することができた。 ・ 国際交流推進協議会については会員の高齢化や目的の達成度から次年度以降解散する方向で検討したい。 ・ 国際交流全般にわたる新しい取り組みに向け補助団体と調整を進める必要がある。 	自己評価どおりで良い	B
40	国際交流の推進③	留学生受け入れ家庭の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3/27～3/31 シンガポール中学生派遣事業 8名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ シンガポールへ中学生を派遣することが出来た。 ・ 受け入れ家庭が確保できない実態のため、派遣事業を進める際受け入れ家庭の確保も同時に進める。 	自己評価どおりで良い	B
41	読書活動の推進①	ブックスタート事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブックスタートパックの配布 3ヶ月健診時 対象24名 ・ 1.6歳、3歳、5歳児健診時の読み聞かせ ・ 11/20 ブックスタート研修会 ・ 2/5 手作りおもちゃ研修会 ボランティア 4名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児から絵本に親しむ環境づくりとして定着している。 ・ ブックスタート後から、図書施設へ足を運ぶ家庭が増えている。 ・ フォローアップは絵本やパネルシアターに興味を示す幼児が増え、日頃から家庭で本を読んでいる環境が多く見受けられる。 ・ 乳幼児～幼児の遊びや生活に関する知識を身に付ける研修を行い、実践に活かしている。 ・ 今後も継続し、本に親しむ機会の充実を図ることが必要。 	自己評価どおりで良い	A
42	読書活動の推進②	図書館・学校図書館・関係団体との連携協力による読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブックフェスティバル 7/11 北小 7/17 久小 10/25 瀬小 ・ 図書館 de カフェ 9/20、3/23 情報センター 6/5、10/23 大成図書館 1/16 生涯学習センター ・ 11/20 ブックスタート研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画的な事業実施により読書へ親しむ子どもの数は増加している。また、各事業を各区で実施することで町内全域の読書活動推進を図る取り組みができた。また、児童生徒の家庭での読書活動が徐々にであるが充実してきている。 ・ H30年度から読書推進計画に基づく予算の確保をしなければならない。 	自己評価どおりで良い	A

			<ul style="list-style-type: none"> ・2/5 手作りおもちゃ研修会 ボランティア 4名 ・学校図書室支援員派遣 62回 			
4 3	読書活動の推進③	読み聞かせなど子どもに関わる読書ボランティア活動の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせイベント ・ブックスタート 月1回 ・ブックフェスティバル 7/11 北小 7/17 久小 10/25 瀬小 ・図書館 de カフェ 9/20、3/23 情報センター 6/5、10/23 大成図書館 1/16 生涯学習センター ・11/20 ブックスタート研修会 ・2/5 手作りおもちゃ研修会 ボランティア 4名 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り活動が実施できた。 ・ボランティアが固定化してきているため、新規ボランティアの獲得など工夫が必要である。 ・ボランティアが固定化されているので新しいボランティアの育成が必要である。 	自己評価どおりで良い	A
4 4	読書活動の推進④	図書・視聴覚などの学習教材の充実	<p>図=図書購入（一般書・児童書・専門書等） 雑=雑誌 新=新聞 D=DVD等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報センター 図 435 冊 雑 96 冊 新 2 種 D0 本 ・大成図書館 図 382 冊 雑 204 冊 新 2 種 D0 本 ・生涯学習センター 図 352 冊 雑 109 冊 新 2 種 D2 本 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書等の充実により、読書活動の推進が図られた ・生涯学習センター図書室の充実を図る必要がある。 	自己評価どおりで良い	A
4 5	生涯スポーツの推進①-1	スポーツの日常化に必要な学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・5/27 ルディックウォーキング講習会 8名 ・2月～3月 全3回 からだケア講座 14名 ・3/29 元気なカラダづくり教室 15名 ・7/7 スポーツアカデミー1 【コンサドレーバドミントン教室】小中学生 57名 ・10/28 スポーツアカデミー1 【ファイターズ野球教室】小中学生 70名 ・3/26 スポーツアカデミー1 【深川友貴サッカー教室】中学生 19名 ・11/18 スポーツアカデミー2 【野球塾】小中学生 64名 ・3/13 スポーツアカデミー2 【バスケットボール教室】小学生 36名 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教室とも、専門知識の習得や運動の基礎、実践を学習する機会として大いに活用されており、競技力向上や基礎体力向上の促進につながっている。 ・年代別の、ニーズに合わせて、提供できている。 ・参加者が固定しているため新たに課題を認識し、対策を講じる必要がある。 	自己評価どおりで良い	A

			<ul style="list-style-type: none"> ・3/20 スポーツアカデミー2 【大森健作サッカー教室】 小学生 16名 ・5月～11月 全6回 キッズ体操教室 就学前児童 25名 ・12月～3月 全4回 キッズ運動教室 就学前児童 19名 ・6月～10月 全3回 訪問キッズ体操教室 園児 69名 ・8/8～9 幼児水泳教室 5.6歳児 20名 ・8月 全5回 泳力検定向けレベルアップ 水泳教室 小中学生 12名 ・1/9～11 初心者スキー教室 小学1.2年生 15名 ・1月全5回 大成スキー教室 28名 			
46	生涯スポーツの推進①-2	スポーツの日常化に必要な学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・10/8 みんなで歩こう会（吟子ロード） 26名 ・10/6 町民駅伝競走大会 54名 ・12/9 子ども体力チャレンジ祭 41名 ・町民スキー大会(参加者不足により中止) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体との連携のもと、計画通り進められており、スポーツ活動の促進が図られている。 ・町外からの参加者を募れるようにして、せたな町のPRにつなげたい。 	自己評価どおりで良い	B
47	生涯スポーツの推進②	誰でも気軽に行うことができる軽スポーツ等の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・1/16 カーリンコン交流大会 15名 ・3/17 バブルサッカー普及交流大会 53名 	<ul style="list-style-type: none"> ・カーリンコンの体験会及びバブルサッカーの交流大会を開催し普及ができた。 ・多くのスポーツについて、情報発信が必要。 ・普及のため、職員の研修が必要。 	自己評価どおりで良い	B
48	生涯スポーツの推進③	スポーツ団体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・せたな町体育協会補助金 786,000円 ・せたな町スポーツ少年団連絡協議会補助金 1,324,600円 ・キャンプタウンきたひやま推進の会補助金 344,000円 ・せたな町スポーツフェスタ実行委員会補助金 23,992円 ・総合型地域スポーツクラブとの連携・支援各開催事業への後援 	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体の活動活性化が図られた。 ・各団体の運営に対する活動費助成や支援が出来た。 ・今後も各団体の運営に対する活動助成を計画的に実施する必要がある。 	自己評価どおりで良い	A

49	生涯スポーツの推進④	指導者の養成	6/29,10/30 キッズ指導者講習会 保育士22名	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の基礎運動能力を高めるための基本的な指導法について、保育士に指導できた。 ・現在の指導者講習会を継続しつつ、各分野の指導員の養成を図る。 	自己評価どおりで良い	B
50	海洋スポーツの推進①	青少年に対する自然観察などを含めた体系的な学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・5/16 海の環境を守る植樹教育活動 (植樹事業の点検・植樹祭への参加) 瀬棚小学校3～4年生 17名 北檜山小学校4年生 32名 ・6/11 川の自然観察(講話・現地) 瀬棚小学校3～4年生 17名 ・6/22 海の自然観察(かるたづくり) 瀬棚小学校3～4年生 17名 ・6/28 川の水質調査(講話・現地) 北檜山小学校4年生 32名 ・7/11 ペットボトルでいかだづくり 北檜山小学校4年生 32名 ・7/13 海の自然観察(漂流物調査) 瀬棚小学校3～4年生 17名 ・8/27 クリーンフェスティバル (クリーン活動) 瀬棚小学校3～4年生 17名 ・9/4 森の自然観察(森林観察・講話) 瀬棚小学校3～4年生 17名 ・9/19 海の資源観察(魚の水場見学) 北檜山小学校4年生 32名 ・10/19 暮らしの水について講話 瀬棚小学校3～4年生 17名 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業は計画どおり実施された。 ・学校との協働により、学校経営に位置づけた取組みとして定着している。 ・継続した活動を進めるため、水プロを学校と連携して実施する他、要望に応じた学習機会の提供を図る必要がある。 	自己評価どおりで良い	B
51	海洋スポーツの推進②	水の事故を防ぐための安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺の安全教室着衣泳体験 7/6 瀬棚小学校3～4年生 17名 7/18 北檜山小学校4年生 32名 9/3 久遠小学校5～6年生 14名 	<ul style="list-style-type: none"> ・着衣泳の実施対象校の拡大により、水辺の安全について多くの子どもたちに伝えることができている。特に、夏休み前に実施している学校については、夏休み中の水上事故を防ぐことに繋がっている。 ・水の事故を防ぐため、多くの町民の関心を高めるよう、海洋スポーツの普及啓発が必要である。 	自己評価どおりで良い	B

5 2	海洋スポーツの推進③	マリンスポーツ体験や講習会等の学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・6/23 プールでOPヨット体験会・カヌー体験会 小学生9名 ・7/13 水に親しむ活動（カヌー体験） 瀬棚小学校3～4年生 17名 ・7/14 海の日（カヌー・SUP・セイリング教室） 小学生9名 ・8/21 水に親しむ活動（カヌー体験） 北檜山小学校4年生 32名 ・9/1 カヌーで川下り体験 8名 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業は計画どおり実施された。 ・指導者養成は、計画的に実施していくことが必要であるため、今後も継続して実施する。 ・屋外で行う事業は、天候にも恵まれ、怪我もなく事業を進めることが出来た。 ・平成30年度は計画通り、天候にも恵まれ出来たが、天候に恵まれない場合の対策を事業として考えて行かなければならないと思われる。 ・指導者会との円滑な連携強化が必要である。 	自己評価どおりで良い	B
5 3	海洋スポーツの推進④	海洋クラブ・指導者会の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬棚海洋クラブ補助金 206,748円 7/30～8/2 東京湾海洋体験アカデミー派遣事業 東京都 1名 引率2名 8/5 北海道ブロック・スポーツ交流交歓会 厚岸町 2名 引率2名 ・6/18～19 リーダー養成研修会 5名 	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣事業を通し、町内で学ぶことのできない体験活動を提供できている。 ・指導者養成は、計画的に実施していくことが必要であるため、今後も継続して実施する。 ・リーダー養成研修を充実させることで、海洋クラブの発展に努めていきたいと思う。 ・指導者会との円滑な連携強化が必要である。 	自己評価どおりで良い	B
5 4	海洋スポーツの推進⑤	専門指導職員の育成・配置	<ul style="list-style-type: none"> ・6/18～19 リーダー養成研修会 5名 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般の利用を受け入れている7～8月には、養成したリーダーを活用し指導体制の充実を図ることができている。 ・B&G運営に必要な専門指導職員の配置の他、各種事業を進めるためのリーダー養成を計画的に進める必要がある。 	自己評価どおりで良い	A
5 5	社会教育・社会体育施設の整備①	施設機能の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・せたな町生涯学習センター備品購入 27,440,895円 ・B&G艇庫 救助艇（マリンジェット） 499,932円 ・B&G体育館 遠赤外線放射暖房機バーナー 613,440円 ・大成町民プール外壁等修繕 712,800円 ・真駒内球場 表土補充転圧修繕 1,263,600円 	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設とも住民の日常活動及び社会教育・社会体育事業の拠点として効果的に利用されているため、必要に応じた整備が実施できた。 ・今後も改修・整備については、計画的に進めていく必要がある。 	自己評価どおりで良い	A

56	社会教育・社会体育施設の整備②	施設の総括的かつ効率的な維持と運営管理	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度10月1日に生涯学習センター開館 ・町民プール解体工事実施業務 12,096,000円 ・町民プール新築工事実施業務 308,309,660円 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センター開館 ・町民プールの解体及び本工事の実施 ・生涯学習センターのオープン後、施設の有効活用を図る必要がある。 ・町民プールオープン後の実施事業の検討が必要である。 	自己評価どおりで良い	A
----	-----------------	---------------------	--	--	------------	---

(評価指標) A 十分達成されている B おおむね達成されている C やや不十分である D 不十分である